

住民アンケート結果概要

平成22年11月25日

住民アンケートの調査概要と回答者の特徴

調査概要

〔調査方法〕 住民基本台帳から無作為抽出による郵送配布・郵送回収

〔調査対象〕 猪名川町在住20歳以上の住民

〔調査規模〕 猪名川町北部地域、南部地域各750世帯(合計1,500世帯)

(各地域の750部のうち、20歳以上～54歳以下、55歳以上～64歳以下(10年後に高齢者となる世代)、65歳以上で、各250部の配布)

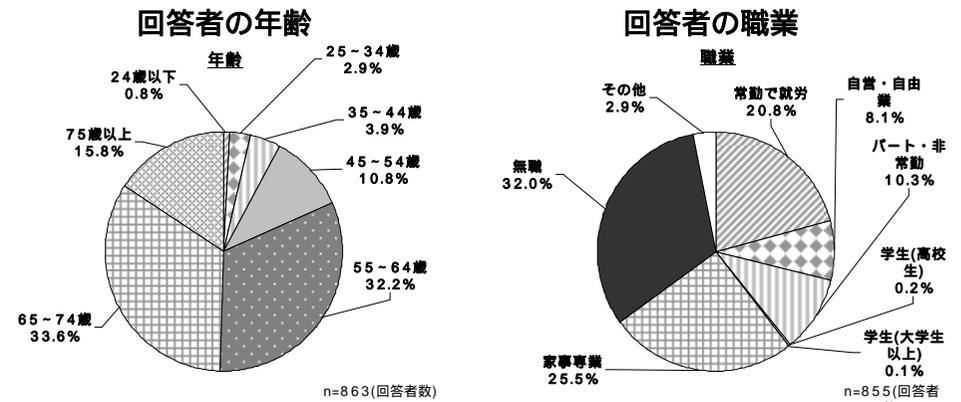
〔調査時期〕 平成22年9月1日(水)に郵送配布し、平成22年9月17日(金)を回収締切日

〔調査項目〕 **普段の外出行動について**
ふれあいバスのニーズ
ふれあいバスの今後の運行について
路線バスネットワークの改編後の移動手段について
川西病院行バスについて(結果概要は資料4「川西病院行バス実証実験の実施状況」参照)
医療機関の利用状況について
属性

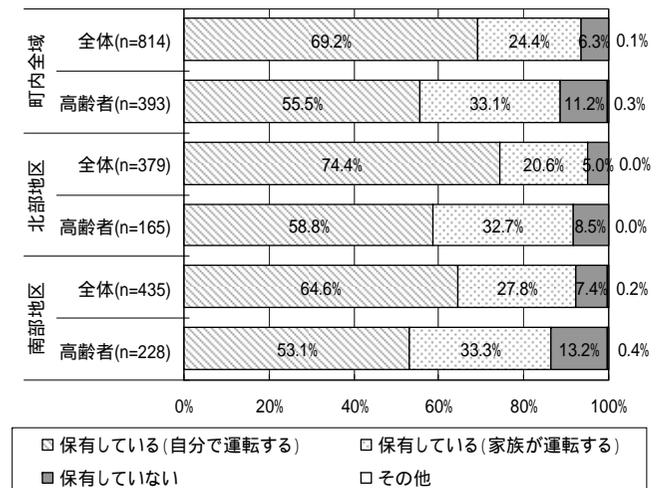
〔回答状況〕 回投票数：869票
 回答率：57.9%

回答者の特徴

- ・回答者の平均年齢は、「63.5歳」と、猪名川町平均の42.4歳(平成22年10月現在)よりも20歳程度年齢層が高い。
- ・そのため、「無職」や「家事専業」といった非就業者の割合が、約58%を占める。
- ・自動車の非保有率(保有していない人の割合)は、約6%である。特に、鉄道や路線バス等の公共交通が充実している南部地域での非保有率は、約7%と高く、かつ高齢者の非保有率は、約13%とさらに高い。



自動車の保有率(地区別・年齢別)

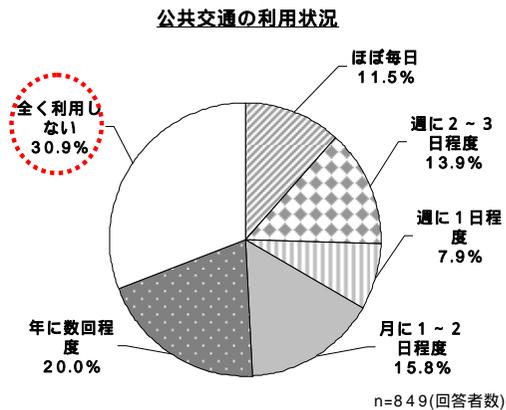


普段の外出行動について

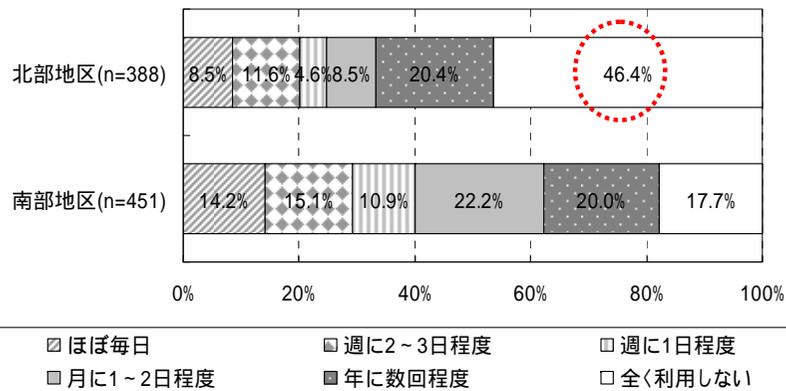
公共交通の利用状況

- ・普段の公共交通の利用状況は、「全く利用しない」が全体の約31%を占め最も多い。
- ・北部地区では、公共交通を「全く利用しない」が全体の約46%を占める。

公共交通の利用状況



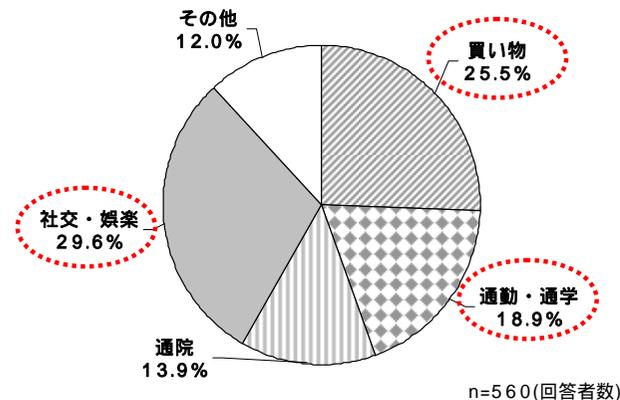
公共交通の利用状況（地区別）



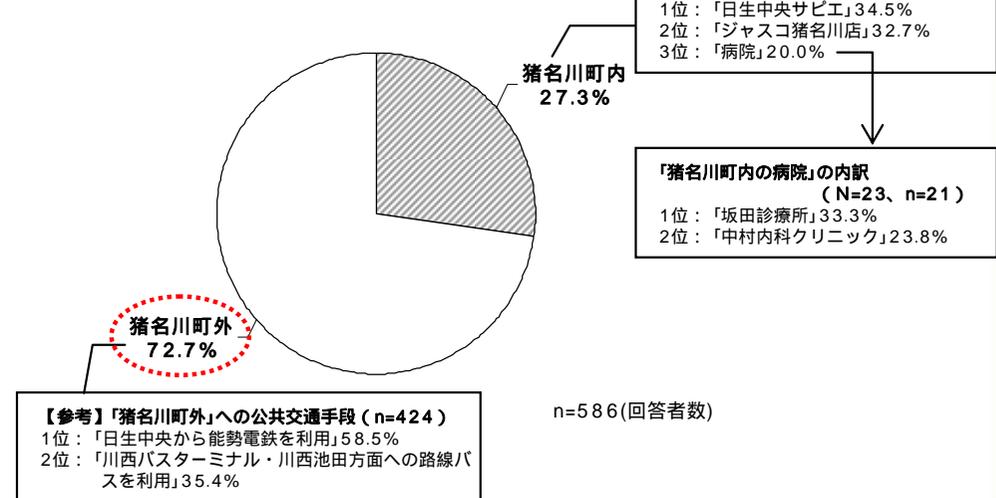
公共交通利用時の外出目的と外出先

- ・公共交通利用時の主な目的は、「社交・娯楽」が全体の約30%を占め最も多い。次いで、「買い物」が約26%、「通勤・通学」が約19%となっている。
- ・公共交通利用時の目的での行き先は、「猪名川町外」が全体の約73%を占め最も多い。次いで、「猪名川町内」が約27%となっている。猪名川町内の外出先は、「日生中央サピエ」が最も多く、次いで「ジャスコ猪名川店」、「病院」となっている。

公共交通利用時の外出目的



公共交通利用時の目的での行き先

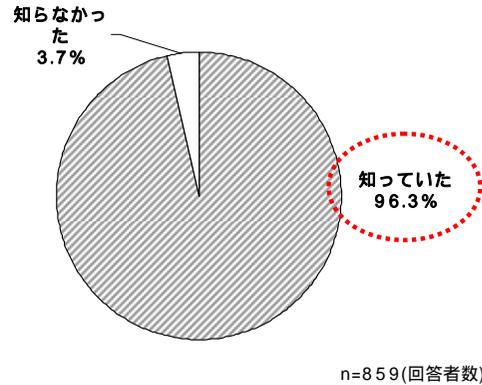


ふれあいバスのニーズ

ふれあいバスの認知度

・ふれあいバスの認知度は、「知っていた」が全体の約96%を占めている。

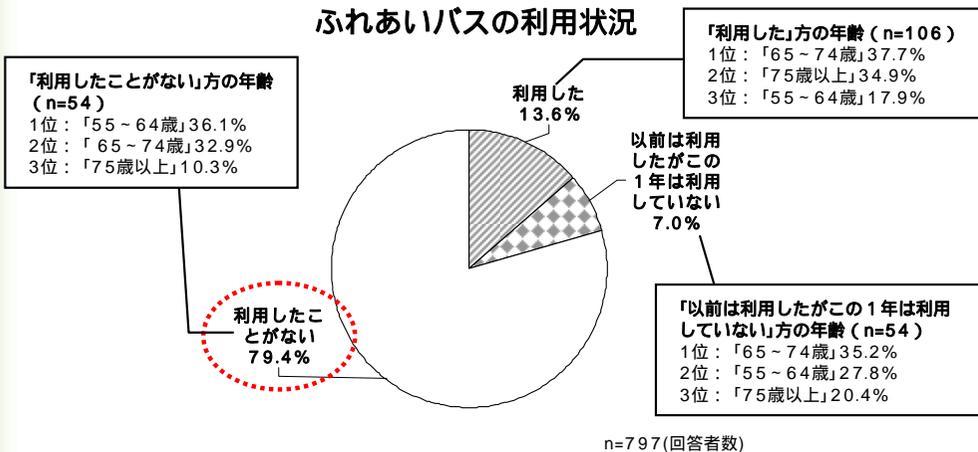
ふれあいバスの認知度



ふれあいバスの利用状況

・「利用したことがない」が全体の約79%を占め最も多い。「この1年間で利用した」が約14%となっている。

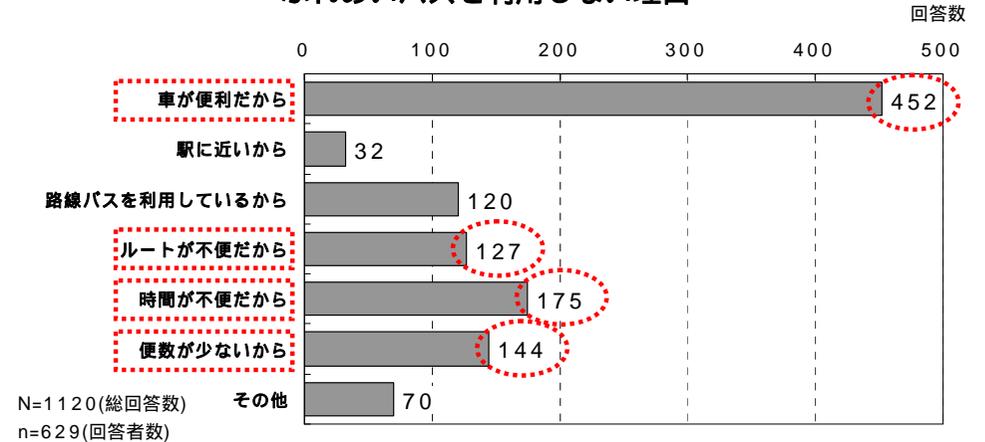
ふれあいバスの利用状況



ふれあいバスを利用しない理由

・ふれあいバスを利用しない理由は、「車が便利だから」が最も多く、次いで「時間が不便だから」、「便数が少ないから」、「ルートが不便だから」となっている。

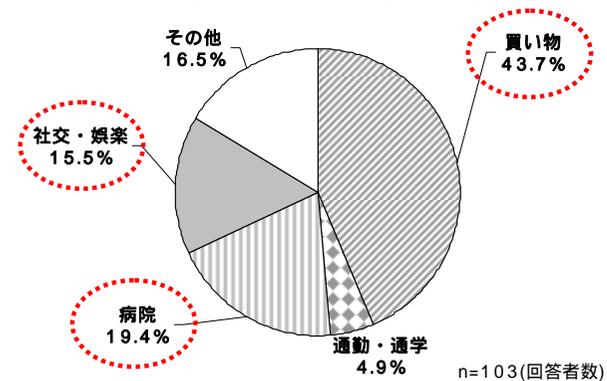
ふれあいバスを利用しない理由



ふれあいバスの利用目的

・ふれあいバスの利用目的は、「買い物」が全体の約44%を占め最も多い。次いで、「病院」が約19%、「社交・娯楽」が約16%となっている。

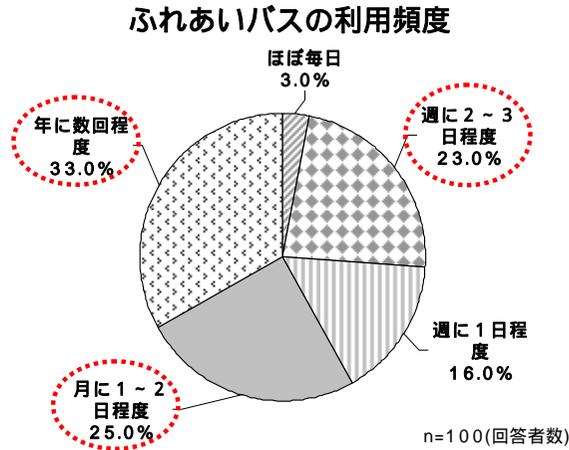
ふれあいバスの利用目的



ふれあいバスのニーズ

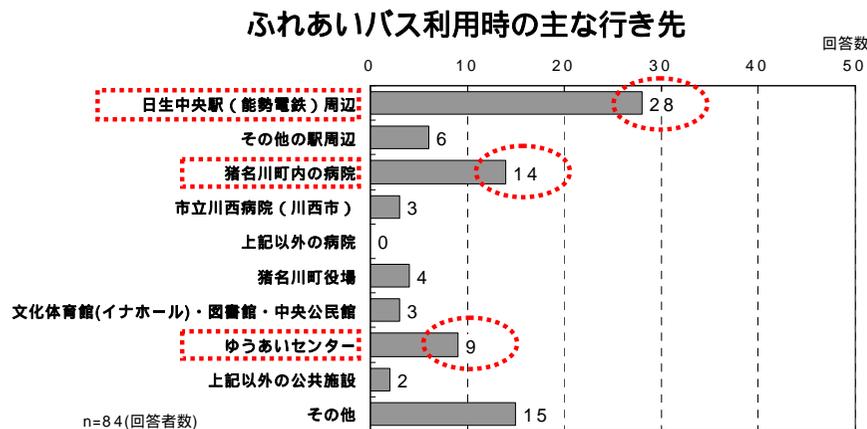
ふれあいバス利用頻度

・ふれあいバスの利用頻度は、「年に数回程度」が全体の約33%を占め最も多い。次いで、「月に1~2日程度」が約25%、「週に2~3日程度」が約23%となっている。



ふれあいバス利用時の主な行き先

・ふれあいバス利用時の主な行き先は、「日生中央駅周辺」が全体の約33%を占め最も多い。次いで、「猪名川町内の病院」が約17%、「ゆうあいセンター」が約11%となっている。



ふれあいバスを利用する際のバス停

・乗車するバス停は、「日生中央」が最も多く、次いで「旭ヶ丘」、「川床口」となっている。

・降車するバス停は、「日生中央」が最も多く、次いで「ジャスコ猪名川店」、「ゆうあいセンター」となっている。

ふれあいバスを利用する際のバス停

【乗車バス停】

順位	停留所名	乗車 回答数	コース			
			北部		南部	
			1	2	1	2
1	日生中央	8				
2	旭ヶ丘中	5				
2	川床口	5				
4	ジャスコ猪名川店	4				
4	旭ヶ丘下	4				
4	尾花橋	4				
7	清水東	3				
7	荘苑自治会館前	3				
7	猪名川台中公園前	3				
7	林田	3				
7	六瀬支所前	3				
12	旭ヶ丘上	2				
12	鎌倉	2				
12	宮前橋	2				
12	笹尾上	2				
12	松尾台四丁目	2				
12	上阿古谷	2				
12	仁頂寺公会堂前	2				
12	西軽井沢	2				
12	猪名川郵便局前	2				
12	白金3丁目	2				
12	伏見池公園前	2				
12	万善	2				

【降車バス停】

順位	停留所名	降車 回答数	コース			
			北部		南部	
			1	2	1	2
1	日生中央	35				
2	ジャスコ猪名川店	21				
3	ゆうあいセンター	6				
4	消防本部前	2				
4	図書館	2				
4	猪名川町役場	2				

2人以上の解答があったバス停を示す。

ふれあいバスのニーズ

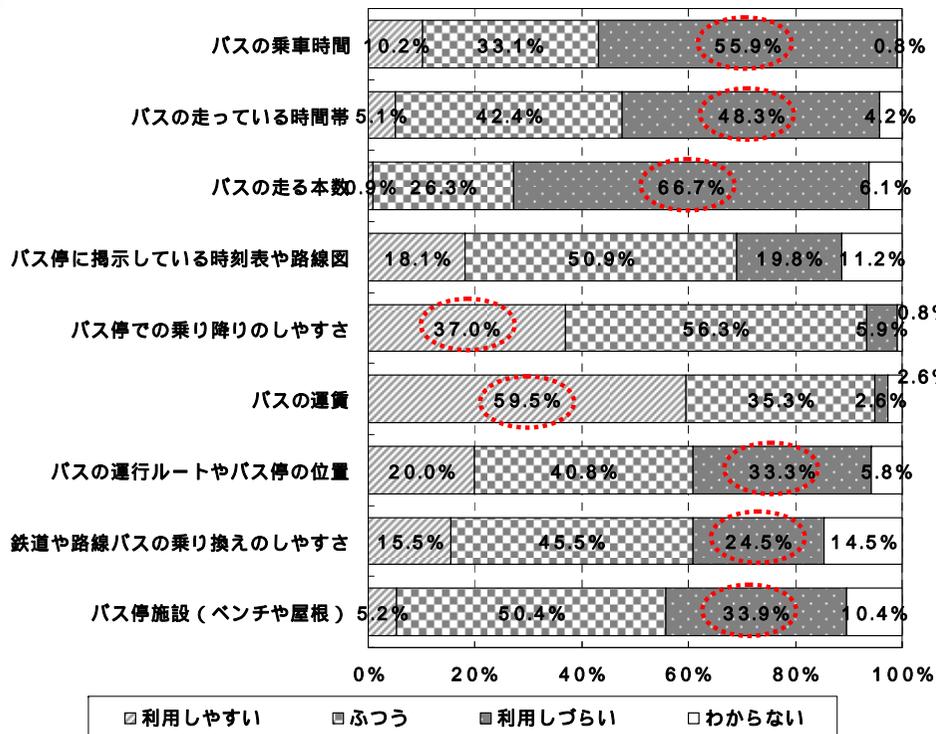
ふれあいバスの利用のしやすさ

・利用しやすいと回答している割合が高い項目は、「バスの運賃」が最も多く、次いで「バス停での乗り降りのしやすさ」となっている。

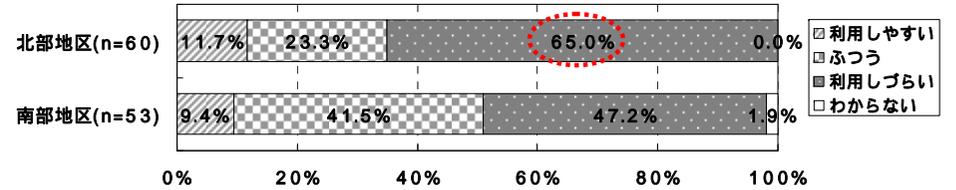
・利用しづらいと回答している割合が高い項目は、「バスの走る本数」が最も多く、次いで「バスの乗車時間」、「バスの走っている時間帯」、「バスの運行ルートやバス停の位置」、「バス停施設(ベンチや屋根)」となっている。

・利用しづらいと回答している割合が高い項目を地区別で見ると、北部地区では、「バスの乗車時間」、「鉄道や路線バスの乗り換えのしやすさ」、「バス停施設(ベンチや屋根)」が高く、南部地区は「バスの走っている時間帯」、「バスの走る本数」、「バスの運行ルートやバス停の位置」が高くなっている。

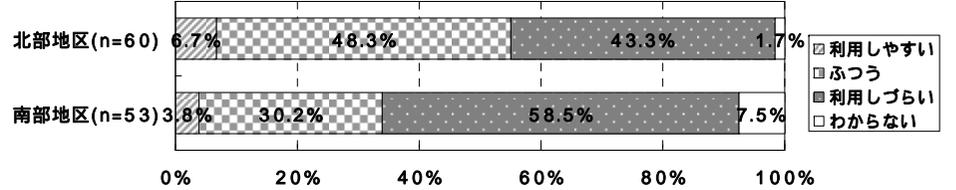
ふれあいバスの利用のしやすさ



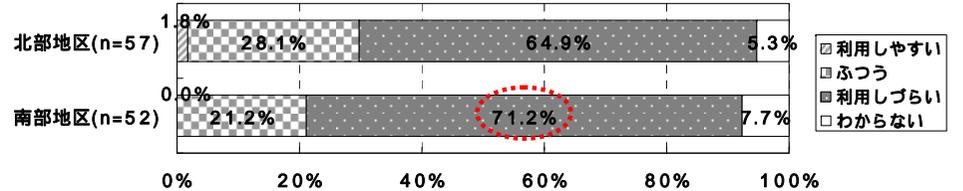
バスの乗車時間(地区別)



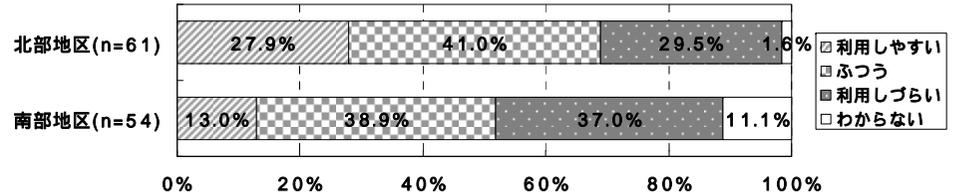
バスの走っている時間帯(地区別)



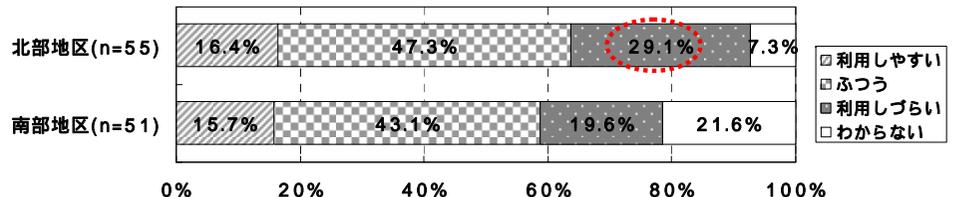
バスの走る本数(地区別)



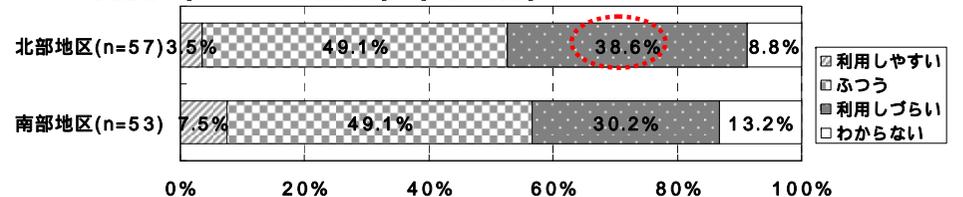
バスの運行ルートやバス停の位置(地区別)



鉄道や路線バスの乗り換えのしやすさ(地区別)



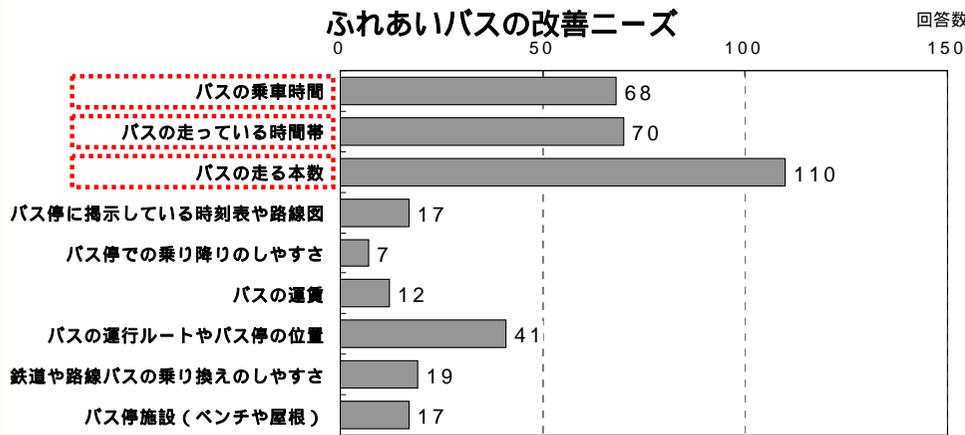
バス停施設(ベンチや屋根)(地区別)



ふれあいバスのニーズ

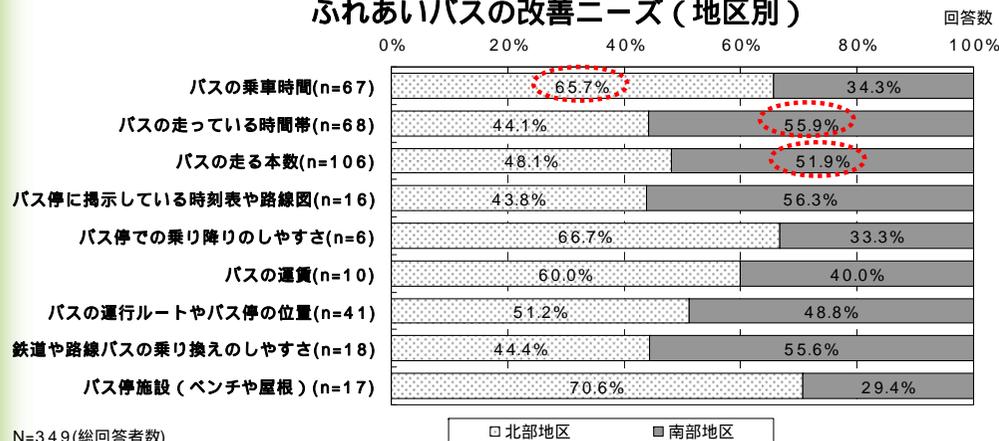
ふれあいバスの改善ニーズ

- ・ふれあいバスの改善ニーズは、「バスの走る本数」が最も多く、次いで「バスの走っている時間帯」、「バスの乗車時間」となっている。
- ・ふれあいバスの改善ニーズを地区別でみると、改善ニーズが最も多い「バスの乗車時間」は北部地区での割合が高く、「バスの走っている時間帯」、「バスの乗車時間」は南部地区での割合が高い。



N=361(総回答数)
n=143(回答者数)

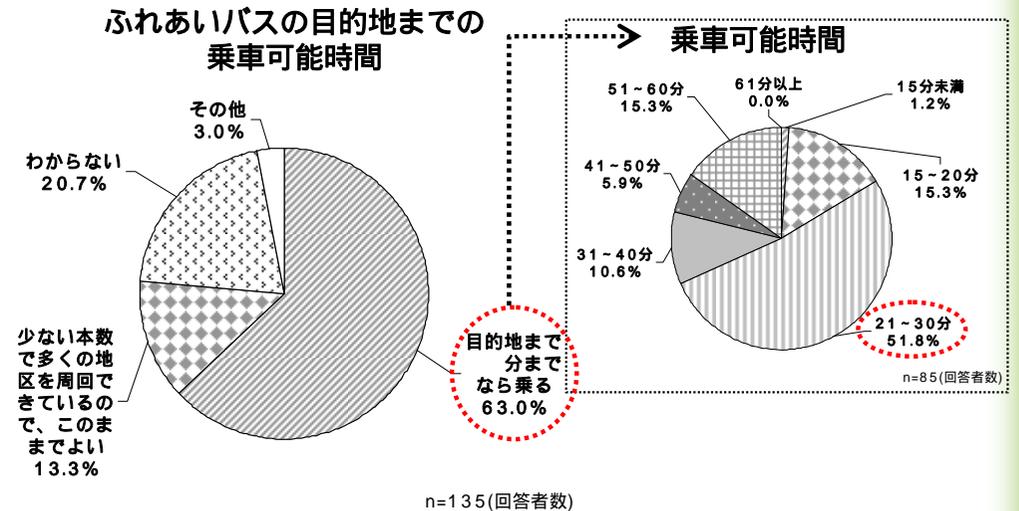
ふれあいバスの改善ニーズ（地区別）



N=349(総回答者数)

ふれあいバスの目的地までの乗車可能時間

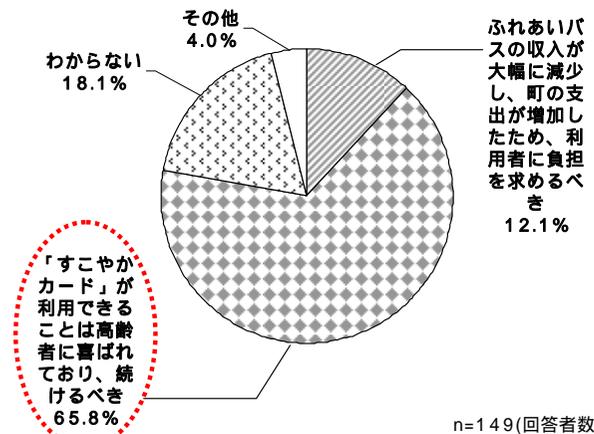
- ・目的地までの乗車可能時間は、「目的地まで 分までなら乗車できる（現行よりも短い時間）」が全体の約63%を占め最も多い。
- ・乗車可能時間は、「21～30分」が約52%を占め最も多い。



すこやかカード保有者の運賃無料について

- ・すこやかカード保有者の運賃無料については、「すこやかカード」が利用できることは高齢者に喜ばれており、続けるべき」が全体の約66%を占め最も多い。

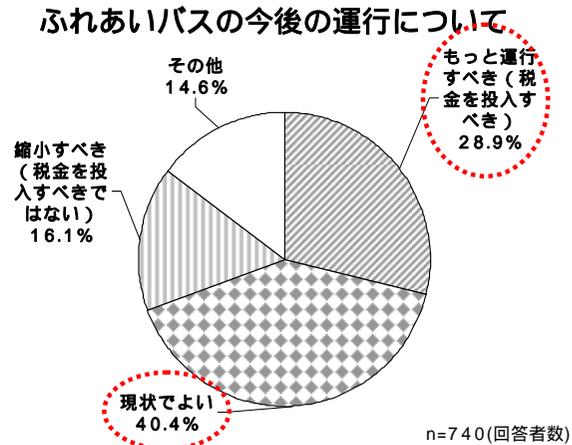
すこやかカード保有者の運賃無料について



ふれあいバスの今後の運行について

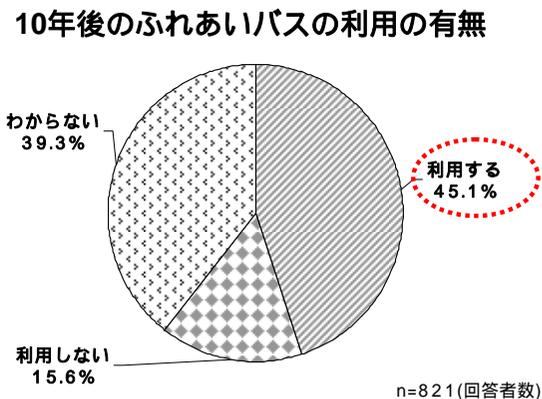
ふれあいバスの今後の運行について

・ふれあいバスの運行に肯定的な回答(もっと運行すべきと現状でよいの合計)は、全体の約69%を占めている。



10年後のふれあいバスの利用の有無

・10年後のふれあいバスの利用の有無は、「利用する」が全体の約45%を占め最も多い。次いで、「分からない」が約39%、「利用しない」が約16%となっている。

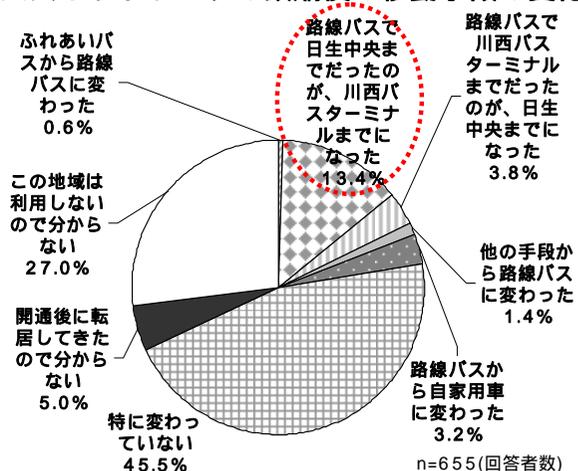


路線バスネットワークの改編後の移動手段について

路線バスネットワークの改編後の移動手段の変化

・路線バスネットワークの改編後の移動手段の変化は、「特に変わっていない」が全体の約46%を占め最も多い。次いで、「この地域は利用しないので分からない」が約27%、「路線バスで日生中央までだったのが、川西バスターミナルまでになった」が約13%となっている。

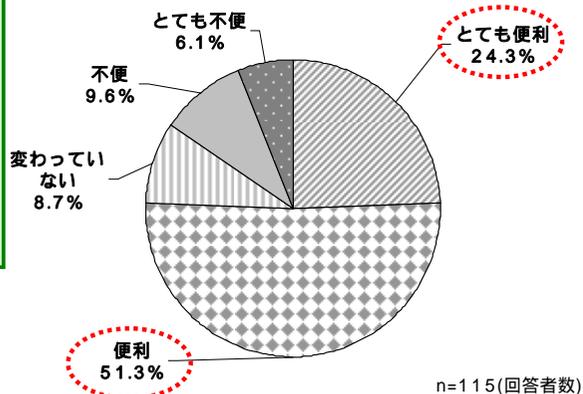
路線バスネットワークの改編後の移動手段の変化



路線バスネットワークの改編後の利便性

・路線バスのネットワーク改編後に路線バスを利用している方の利便性は、「便利(とても便利と便利の合計)」が全体の約75%を占め最も多い。なお、「不便(とても不便と不便の合計)」は約16%となっている。

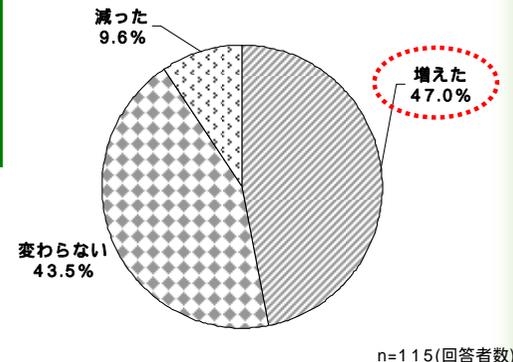
路線バスネットワークの改編後の利便性



路線バスネットワークの改編後の利用頻度

・路線バスのネットワーク改編後に路線バスを利用している方の利用頻度は、「増えた」が全体の約47%を占め最も多い。次いで、「変わらない」が約44%、「減った」が約10%となっている。

路線バスネットワークの改編後の利用頻度

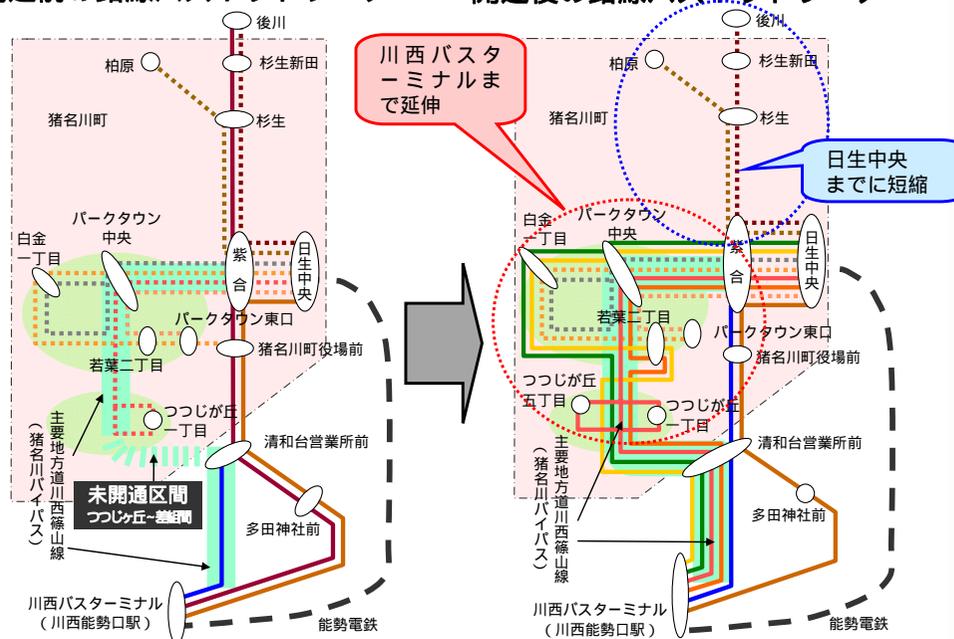


【参考】主要地方道川西篠山線(猪名川バイパス)による路線バスネットワークの改編

平成14年3月に主要地方道川西篠山線(猪名川バイパス)のつつじが丘～差組間が開通し、路線バスのネットワークを改編

開通前の路線バスネットワーク

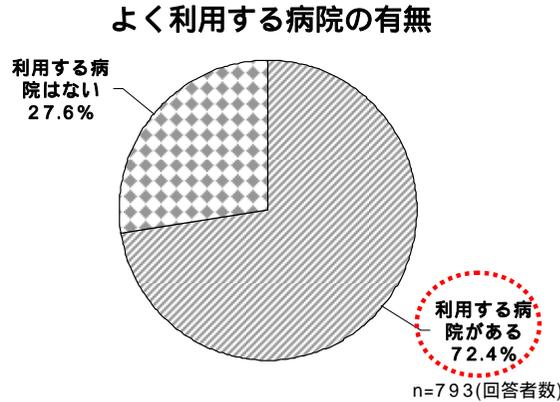
開通後の路線バスネットワーク



医療機関の利用状況について

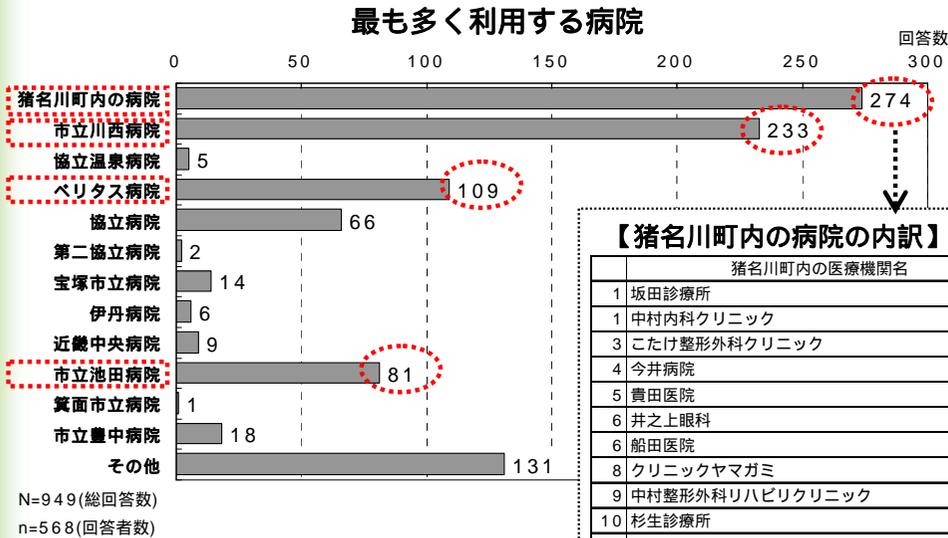
よく利用する病院の有無

よく利用する病院については、「利用する病院がある」が全体の約72%を占めている。「利用する病院はない」は約28%となっている。



最も多く利用する病院

最も多く利用する病院は、「猪名川町内の病院」が最も多く、次いで「市立川西病院(川西市東畦野)」、「ペリタス病院(川西市新田)」、「市立池田病院(大阪府池田市城南)」となっている。

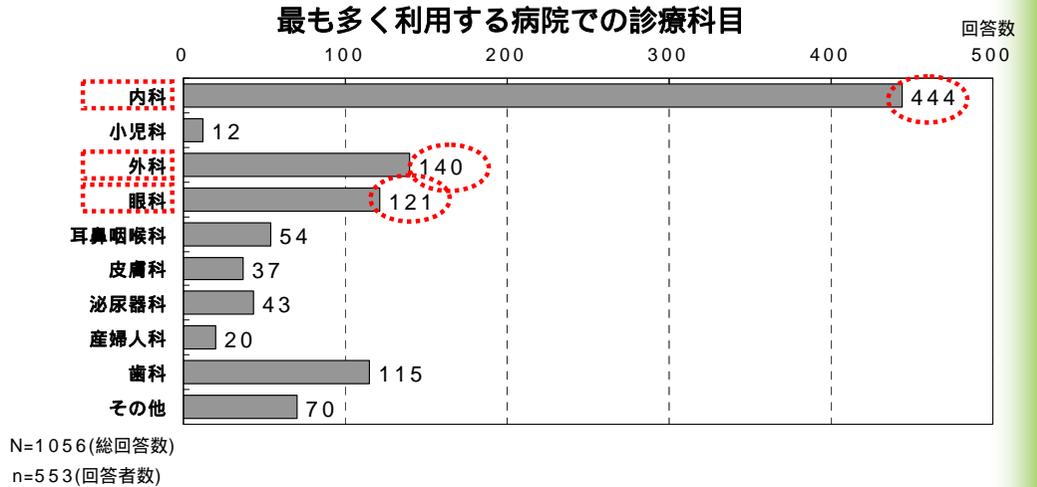


【猪名川町内の病院の内訳】

猪名川町内の医療機関名	総回答数(N=282)
1 坂田診療所	60
1 中村内科クリニック	60
3 こたけ整形外科クリニック	23
4 今井病院	21
5 貴田医院	20
6 井之上眼科	11
6 船田医院	11
8 クリニックヤマガミ	10
9 中村整形外科リハビリクリニック	9
10 杉生診療所	6
...	...
合計	282
回答者数	225

最も多く利用する病院での診療科目

最も多く利用する病院での診療科目は、「内科」が最も多く、次いで「外科」、「眼科」となっている。



最も多く利用する病院の利用頻度

最も多く利用する病院の利用頻度は、「年数回程度」が全体の約52%を占め最も多い。次いで、「月に1~2日程度」が約38%となっている。

